



水分の多いごみは回収も大変

可燃物の量は、昨年1年間で4万3,312<sup>ト</sup>。これを月平均にすると、3,609<sup>ト</sup>になります。

月別で1番多かったのは、7月の4,163<sup>ト</sup>、次いで8月の3,888<sup>ト</sup>でした。

## 最も多い7・8月

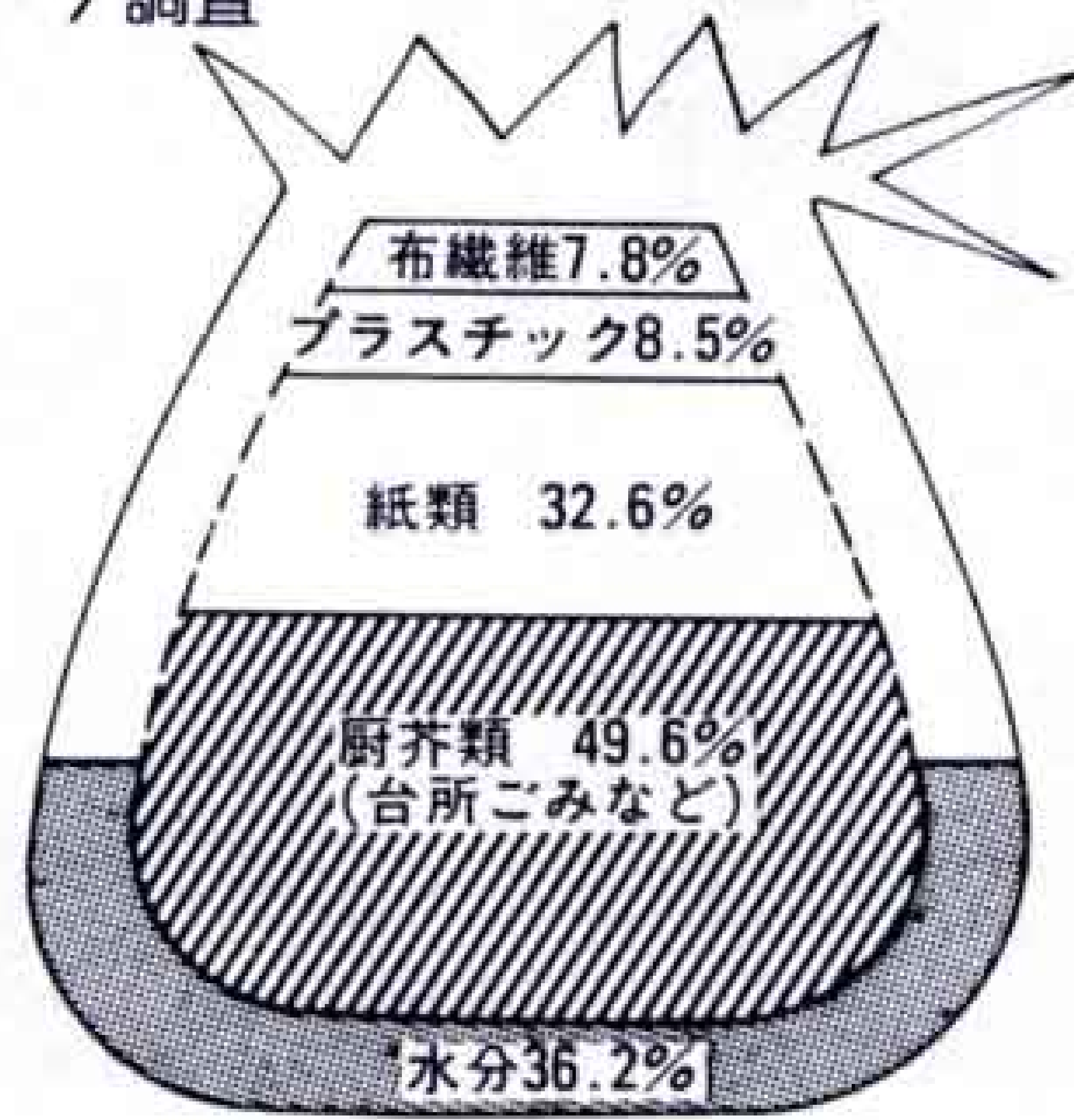
可燃物については、現在第一清掃工場の2基の焼却炉で、焼却処分しています。炉の焼却能力は2基で、1日180<sup>ト</sup>位ですが、炉が古いため約140<sup>ト</sup>位しか焼却できません。月平均にすると約3,500<sup>ト</sup>。したがって、焼却能力は限界に達している状態といえます。特に、7月・8月は、水分を多く含んだごみが増えて焼却能率が悪くなります。

水分を含んでいるごみを焼やすということは、それだけ余分に燃料を使うことにもなります。

## 水分が36%も

次に、みなさんの家庭から出された、生ごみの分析調査結果について

生ごみの中にはこんなものが  
S57・7調査



紹介します。まず、ごみの中には水分が36%も含まれていました。この水分とは別に、台所の残飯などの厨芥類49.6%、紙類32.6%、布・繊維類7.8%、プラスチック類8.5%でした。このように生ごみの中には、資源となる紙類が多く含まれています。それと、水分が3分の1も――。

したがって各家庭で、生ごみを出すときは、水をしっかり切ってください。それがごみの減量につながります。

## 各家庭で水切りを



第一清掃工場勤務  
村松純夫さん  
(51歳)

夏場は、水分の多いごみが出るので大変。家庭でごみを出すときに、果物などは、2~3日乾燥させてから出してもらおうと大変助かるのだが…。それから、生ごみの中にびんやかんが入っているときもあります。これらのごみには、十分注意してください。



〜ポリバケツによる処理法〜

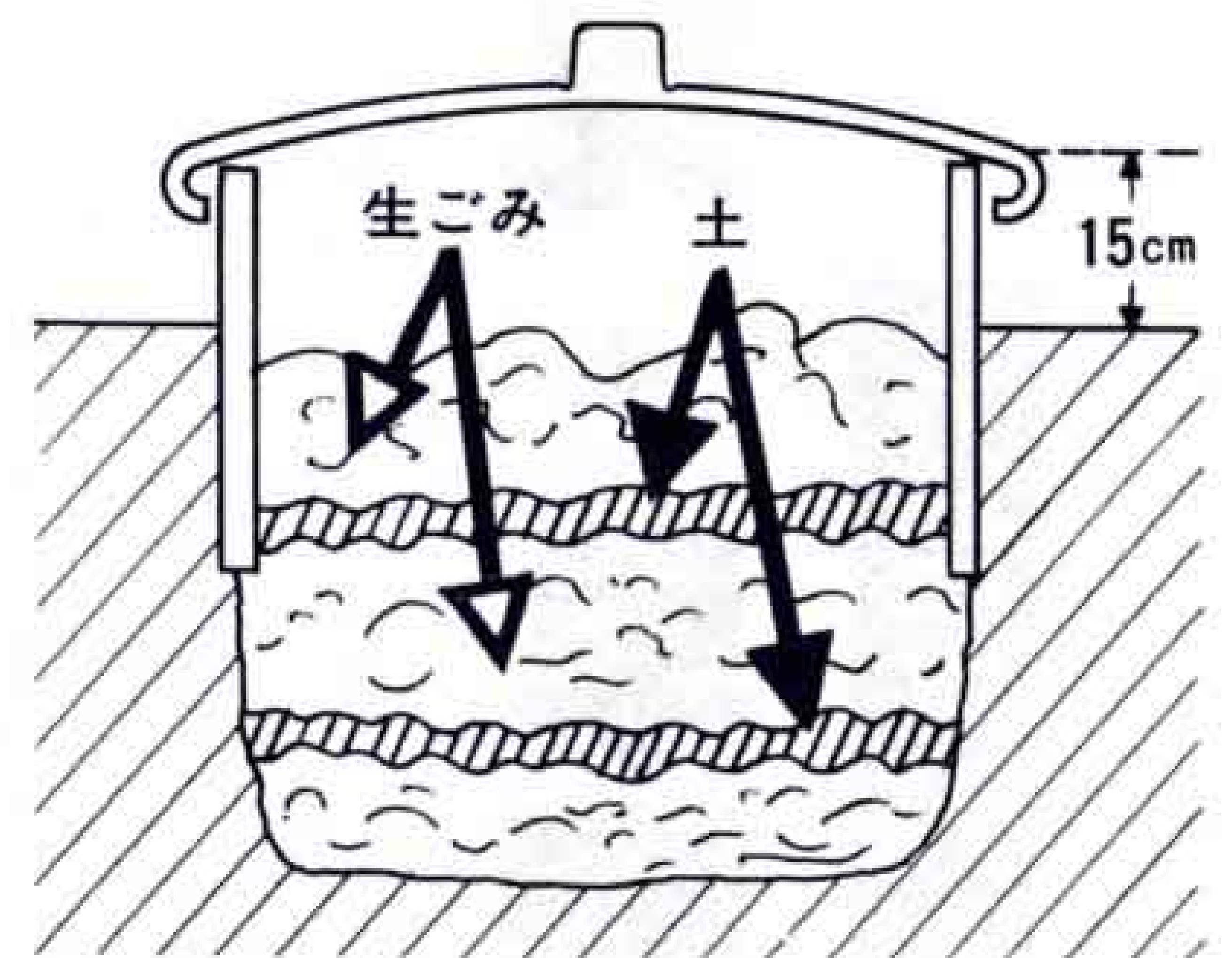
だれでも簡単にでき、犬や猫に荒らされることなく、堆肥としても使えます。

☆揃えるもの

大型フタつきポリバケツ(直径50<sup>センチ</sup>)  
シャベル、くわ、のこぎり

☆作り方

- (1)シャベル、くわ等でポリバケツの大きさに合わせて、深さ50<sup>センチ</sup>の穴を掘る
- (2)ポリバケツは、上から30<sup>センチ</sup>のところマジックでしるしをつけ、のこぎりで切りおとす
- (3)ポリバケツを下図のように埋める



※堆肥状になっていくため、50<sup>センチ</sup>直径のバケツなら2ヵ月もちます。3ヵ月位たつと堆肥として家庭菜園などに使えます。

(4)生ごみがいっぱいになったら、他に穴を掘ってバケツを埋める

☆埋立てるときの注意

・ハエをわかしたりしないよう、石灰チツツをふりかけたり、土をかける。

—市民会館自主文化事業—

松山バレエ団富士特別公演

# 白鳥の湖



9月18日(土) 開演14:00

吉原市民会館大ホール

入場料・S席指定 3,800円(当日4,000円)  
・A席自由 2,800円(当日3,000円)  
(各プレイガイドで発売中)